

## タバコや大気汚染に注意！ 慢性閉塞性肺疾患（COPD）

### ●慢性閉塞性肺疾患（COPD）とは

タバコ・大気汚染などが原因で、気管支内の空気の流れに障害を起こす病気をCOPDといます。

最近の調査では、日本の患者数は40歳以上の約530万人、70歳以上の高齢者の約210万人といわれています。その死亡数は年間約1万人であり、疾患別死亡順位の第8位です。さらに、死亡数は年々増加の傾向にあり、2020年には第4位になると予想されています。

せき、たん呼吸困難（特に運動時）などを主な症状として訴える人が多く、また、慢性進行性で、長い年月をかけて徐々に症状が明らかになっていく場合も多くあります。呼吸困難感がある日何かをきっかけに自覚することがあるので、注意が必要です。比較的高齢で喫煙歴があり、慢性的なせき・たん・進行性の息切れを伴う場合には、COPDを疑って肺機能検査を行うことが大切です。

### ●治療について

病気の軽重に関わらず禁煙、大気汚染などからの回避が重要です。COPDはタバコが原因となることがわかっています。禁煙はできるだけ早い時期に行うことが必要です。

また、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンは、急性増悪の予防・死亡率を軽減するとされています。特にインフルエンザワクチンは有効で、毎年接種が推奨されます。

さらに薬物療法である気管支拡張薬や、病気が進行してからのステロイドの定期使用は、急性増悪の回数を減らし、QOL（quality of life）を改善するとの結果が得られています。

呼吸リハビリテーションや栄養療法は、病気の状態によって有効性を認めています。

在宅酸素療法は、症状が進行した低酸素状態が認められる場合に適応となります。外科的手技として肺容量減少術がありますが、肺の病変が主に肺の上方に存在した場合に、治療効果が高いとされています。肺移植はCOPDで若い人の一部が対象となります。COPDでは慢性安定期でもその状態に多少の日内変動があります。感染などを契機に、急に症状が悪化する場合もあり、その際は入院での治療が必要となります。